

# 第1章 総 則

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

本資料は、学習指導要領に示された児童の資質・能力の育成を目指し、教育課程に基づく指導と評価の一体化を図るものである。小学校学習指導要領（平成29年告示）、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」（平成31年1月21日）、「埼玉県小学校教育課程編成要領」（平成30年3月）及び文部科学省初等中等教育局長通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善等について」（平成31年3月29日）を基に、次の考え方に立って作成した。

- (1) 学力の重要な要素を示した学習指導要領等の趣旨の反映
- (2) 児童の学習改善及び教師の指導改善につながる学習評価の在り方

### 2 取り上げた内容

#### 第1 本資料の活用について

#### 第2 学習指導と評価の基本的な考え方

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価について
- 3 学習評価の課題と改善の基本方針について
- 4 教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力の指導と評価について
- 5 質の高い学校教育と学校における働き方改革の両立を目指した教育課程について
- 6 学習評価の評定への総括例について

#### 第3 事例編

##### 1 地域とともにある学校を目指した教育課程の事例

地域人材や地域資源を生かした検証改善サイクルの事例である。学校運営協議会において策定された「地域との共通目標」を軸にしたカリキュラム・マネジメントの具体例を示している。

##### 2 確かな学力の育成を目指した教育課程の事例

埼玉県学力・学習状況調査（以下「県学調」という。）等を生かした検証改善サイクルの事例である。県学調の分析・取組の明確化、教育課程への位置付け、共通理解の下での実施、県学調による検証・分析の具体例を示している。

##### 3 豊かな心の育成を目指した教育課程の事例

望ましい人間関係の構築を軸とした検証改善サイクルの事例である。児童対象のアンケートや、教員・保護者・地域の方による評価を活用した取組の具体例を示している。

##### 4 幼児期の教育との円滑な接続を目指した事例

幼小の交流を基に把握した子供の姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸とした検証改善サイクルの事例である。スタートカリキュラム改善の具体例を示している。

##### 5 特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への対応例

日本語指導教室の事例では、個別の指導計画に基づく取組の具体例を示している。不登校児童対応の教育支援センターの事例では、関係機関との連携の具体例を示している。

#### 第4 資料編（P328～）

- 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現 6則（P328参照）
- 2 私の学校・学級ではこんな取組が効果的でした！ 小学校版（P329参照）
- 3 授業力自己診断シート（P330参照）
- 4 学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）

文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター（P333参照）

### 3 本資料の活用にあたって

- (1) 本資料は「埼玉県小学校教育課程編成要領第二部総則編」を受け、編成事例を掲載している。総則は、各教科等の指導及び評価のベースとなる考え方が示されていることから、事例を参考に、学校の実態及び児童の心身の特性に則して創意工夫を加え、指導及び評価を実施されたい。
- (2) 「埼玉県小学校教育課程編成要領」及び本資料を基に各学校でカリキュラム・マネジメントを行うなど、学校全体で教育活動の質的向上を図られたい。

## 第2 学習指導と評価の基本的な考え方

### 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

#### (1) 指導について

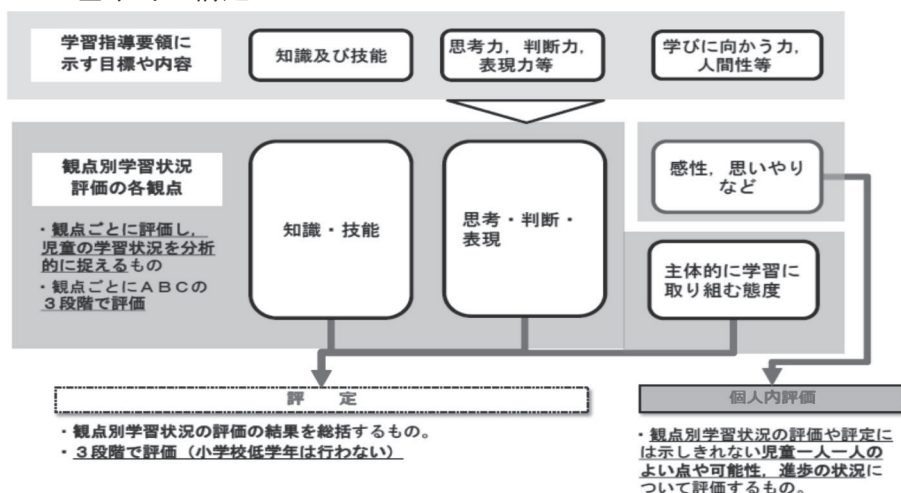
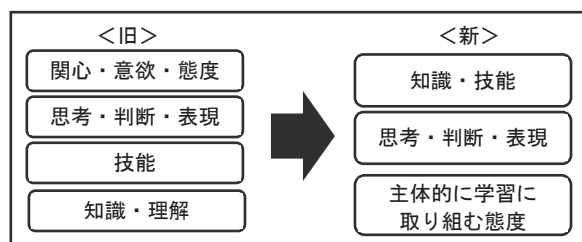
|   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>「知識及び技能」</b><br/>知識については、児童が学習の過程を通して個別の知識を学びながら、そうした新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、各教科等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得されるようにしていくことが重要となる。<br/>また、教科の特質に応じた学習過程を通して、知識が個別の感じ方や考え方等に応じ、生きて働く概念として習得されることや、新たな学習過程を経験することを通して更新されていくことが重要となる。</p> | <p><b>「思考力、判断力、表現力等」</b><br/>「思考力、判断力、表現力等」とは、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力である。その過程については大きく分類して次の三つがあると考えられる。<br/>・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程<br/>・精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程<br/>・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程<br/>各教科等において求められる「思考力、判断力、表現力等」を育成していく上では、こうした学習過程の違いに留意することが重要である。</p> | <p><b>「学びに向かう力、人間性等」</b><br/>児童一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。こうした情意や態度等を育てていくためには、これまでの豊かな実践を生かし、体験活動を含めて、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。</p> |
|---|--|--|

#### (2) 評価について

##### ア 基本的な考え方

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等における観点別学習状況の評価についても右の3観点に整理された。

##### イ 基本的な構造



「学びに向かう力、人間性等」には、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と、「感性、思いやりなど」のように、観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分がある。

|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <p><b>「知識・技能」</b><br/>各教科等における学習過程を通して知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既得の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。</p> | <p><b>「思考・判断・表現」</b><br/>各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか評価する。</p> | <p><b>「主体的に学習に取り組む態度」</b><br/>知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。</p> | <p><b>「感性、思いやりなど」</b><br/>個人内評価の対象になるものについては、児童が学習してきたことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動の中で児童に伝えることが重要である。特に児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童に伝えることが重要である。</p> |
|---|---|--|---|

## ウ 具体的な評価の方法

### 「知識・技能」

ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられる。また、児童が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も考えられる。

### 「思考・判断・表現」

ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。

### 「主体的に学習に取り組む態度」

ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。その際、各教科等の特質に応じて、児童の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、次の二つの側面を評価することとした。

#### ①粘り強い取組を行おうとする側面

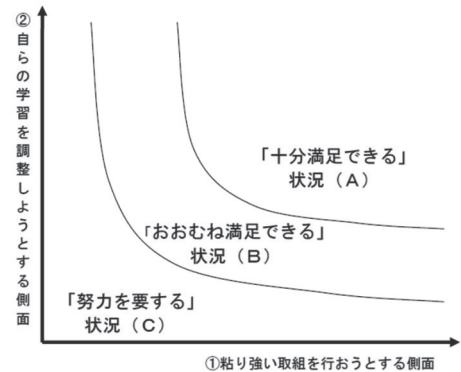
各教科等の観点の趣旨に照らし、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた中で粘り強く行おうとする側面。

#### ②自らの学習を調整しようとする側面

①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

これら①②の姿は実際の教科等の学びの中で別々に現

れるものではなく、相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く把握せず、進め方について試行錯誤などを全くせずに粘り強く取り組んだり、粘り強く取り組めていないのに自らの学習をしっかりと調整できたりという姿は一般的に考えられる姿ではない。また、学習初期ではなく、学習が進行するにつれて多く見受けられるようになることが想定される。



## 2 カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価について

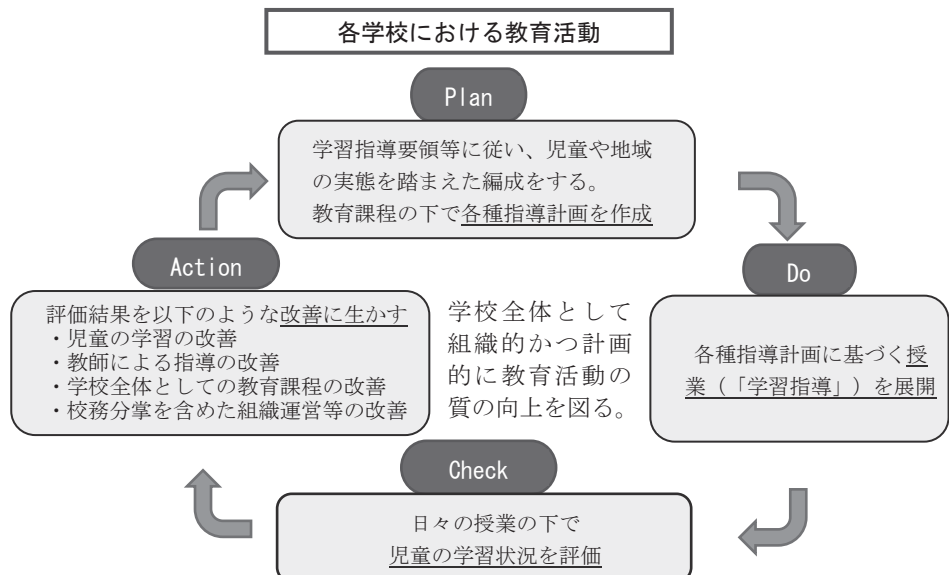
### (1) カリキュラム・マネジメントの充実と三つの側面

カリキュラム・マネジメントは学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことであり、その充実が求められている。カリキュラム・マネジメントには以下の三つの側面がある。

- ①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
- ②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。
- ③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。

### (2) 「学習指導」と「学習評価」のサイクル

各学校における教育活動の多くは、学習指導要領等に従い児童や地域の実態を踏まえて編成された教育課程の下、指導計画に基づく授業（「学習指導」）として展開される。各学校では、児童の学習状況を評価し、その結果を児童の学習や教師による指導の改



善や教育課程の改善等に生かしており、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っている。

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。

### 3 学習評価の課題と改善の基本方針について

#### (1) 学習評価の現状による主な課題

- ア 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童の具体的な学習改善につながっていない。
- イ 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、客観性を求めるあまり挙手の回数やノートを毎時間とっているかなど、一時的に表出された場面のみを捉える評価であるという誤解が払拭しきれていない。
- ウ 教師によって評価の方針が異なり、学習改善につながりにくい。
- エ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力しづらい。
- オ 相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や次の学校段階において十分活用されていない。

#### (2) 課題を受けた、学習評価の改善の基本的な方向性

上記で述べた課題に応えるとともに、学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の3点を改善に向けた基本的な方向性とする。

- ① 児童の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

#### (3) 教科等の学習評価の主な改善点について

<特別の教科 道徳の評価>  
 児童に考えさせることを明確にして「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」という学習活動における児童の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で評価する。

<基本的な考え方>

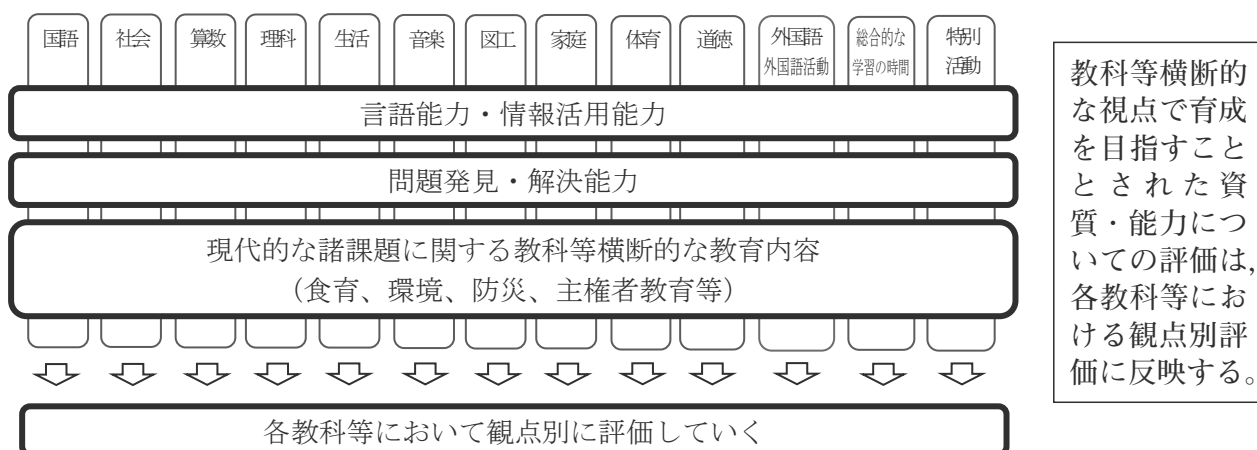
- ・数値による評価ではなく、記述式とする。
- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりで評価する。
- ・他の児童との比較ではなく、個人内評価とする。
- ・多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中かで深めているかといった点を重視する。

<外国語活動の評価>

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
|   | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
| <p>① 評価の観点<br/>                 学習指導要領に示す「第1目標」を踏まえ、右の表を参考に設定する。<br/>                 この三つの観点に則して児童の学習状況を見取る。</p>                   | 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 | 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 | 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 |
| <p>② 指導要録の記録<br/>                 従来、観点別に設けていた文章記述欄を簡素化した上で、評価の観点に則して、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたか文章で端的に記述する。</p> |   |   |  |

#### 4 教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力の指導と評価について

よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を児童一人一人に育んでいくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用することが大切である。また、現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容（食育、環境、防災、主権者教育等）（※小学校学習指導要領解説総則編 付録6参照）を、各教科等における「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価に反映し、それらが教科等横断的に関連付け発揮されるようにすることが重要である。したがって、例えば、各教科等の評価規準とは別に、教科等横断的な資質・能力に関わる評価規準を設定し評価することは必ずしも必要ではない。



#### 5 質の高い学校教育と学校における働き方改革の両立を目指した教育課程について

##### (1) 学校が作成する計画等の見直し

- ア 学校単位で作成される計画については、業務の適正化の観点や、計画の機能性を高めカリキュラム・マネジメントの充実を図る観点から、計画の統合も含め、計画の内容や学校の実情に応じて効果的な計画を作成し、指導を推進する。
- イ 各教科等の指導計画や、特別な支援が必要な児童のための個別の指導計画・教育支援計画等の有効な活用を図るためにも、計画の内容の見直しや学校の実情に応じて複数の教師が協力して作成し、共有化を図りながら指導と評価を行う。
- ウ スクラップ・アンド・ビルドの視点から、学校が作成する計画等の必要性を含め、整理・合理化をしていくとともに、PDCAサイクルの中で活用しやすいものになるよう取り組む。

##### (2) 学校における働き方改革に配慮した教育課程の編成・実施

- ア 各学校の指導体制を整えないまま、学力向上を目指すために単に標準授業時数を大きく上回った授業時数を実施することは、教師の負担増加に直結するものであることから、学校の指導体制に見合った授業時数を設定する。
- イ 仮に標準授業時数を大きく上回った授業時数を計画している場合には、指導体制の整備状況を踏まえて精査して教師の時間外勤務の増加につながらないようにし、教育課程の編成・実施に当たっても働き方改革に十分配慮すること。例えば、学期末の数日間を4時間授業で下校するようにして午後を成績処理の時間として確保する方法や、土曜日に授業参観等を実施した場合は振替休業日を翌週に設けるなど、心身の休養期間を確保する方法などが考えられる。
- ウ 標準授業時数を踏まえて教育課程を編成したものの災害や流行性疾患による学級閉鎖等の不測の事態により当該授業時数を下回った場合、下回ったことのみをもって学校教育法施行規則に反するとされるものではない。授業時数が下回った場合でも、時数の確保ではなく、児童の学力を保証することが可能であればよい。その際、必要に応じて放課後の補習や宿題などによる対応も可能であることから、不測の事態を過剰に意識した授業時数の確保は不要である。
- エ 学校行事の精選や取組内容の削減、学校行事に向けた練習の簡素化などによって、児童が学習に取り組む授業時間を適正に確保する。削減や簡素化についての検討は、学校の特色や地域や保護者、児童の実態をよく見極めた上で行うことが大切である。

## 6 学習評価の評定への総括例について

各学校では、観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法を事前に共通理解を図っておく必要がある。その上で、児童及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。

なお、総括の方法として、以下の方法が考えられる。

① 評価結果のA, B, Cの数を基に総括する方法 (本資料の教科等編で詳しく説明)

② 評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて総括する方法 (中学校教育課程指導・評価資料で詳しく説明)

②の方法は、何回か行った評価結果A, B, Cを、例えばA=3, B=2, C=1のように数値によって表し、合計したり平均したりする。

例： 総括の結果をBとする範囲を  $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$  とすると、「A B B」の平均値は、 $2.3 [(3 + 2 + 2) \div 3]$  で総括の結果はBとなる。

(観点別学習状況について)

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

C：「努力を要する」状況と判断されるもの

(評定について)

3：「十分満足できる」状況と判断されるもの

2：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

1：「努力を要する」状況と判断されるもの

評価の場面については、学習評価の課題 (P5参照) を受けて、工夫した計画の立案が重要になる。例えば、総括の資料とするために児童全員の学習状況を記録に残す場面を精選しつつ、教師の指導改善につなげるために児童の学習状況を記録する場面と組み合わせるなどの計画が考えられる。

### (1) 観点別学習状況の評価に係る記録の総括

観点別学習状況の評価に係る記録が観点ごとに複数ある場合は、「何回か行った評価結果のA, B, Cの数が多いものが、その観点の学習の実施状況を最もよく表現しているとする」考え方に立つ総括の方法がある。

例：評価結果のA, B, Cの数が多いものがはっきりしている。「A B B B」→B

「A A B B」のような同数の場合や、「A B C」のような三つの記号が混在する場合等には、あらかじめ各学校において基準を決めておく必要がある。

### (2) 評定への総括

各観点の評価結果をA, B, Cの組合せに基づいて総括する方法がある。

例：各観点とも同じ評価がそろっている。「B B B」→2

「A A B」や「B B A」のような場合は、各観点のA, B, Cの数の組合せから適切に評定することができるように、あらかじめ各学校において基準を決めておく必要がある。

### (3) 学年末 (指導要録) の評定への総括

①学期末に総括した評定の結果を基にする方法と、②学年末に観点ごとに総括した結果を基にする方法がある。なお、「B B C」のような記号が混在する場合等には、あらかじめ各学校において基準を決めておく必要がある。

略記：知識・技能→知・技 思考・判断・表現→思・判・表 主体的に学習に取り組む態度→態

例：① 「3 3 3」→3

② 「A A A」→3

|       | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 学年末 |
|-------|-----|-----|-----|-----|
| 知・技   | A   | A   | A   |     |
| 思・判・表 | A   | A   | B   |     |
| 態     | A   | B   | A   |     |
| 評定    | 3   | 3   | 3>  | 3   |

|       | 1学期 | 2学期 | 3学期 | 学年末 |
|-------|-----|-----|-----|-----|
| 知・技   | A   | A   | A>  | A   |
| 思・判・表 | A   | A   | B>  | A   |
| 態     | A   | B   | A>  | A   |
| 評定    |     |     |     | 3   |

①②ともに、あらかじめ決めておいた基準により「A A B」の組合せの総括を「3」もしくは「A」とした事例である。

### 第3 事例編

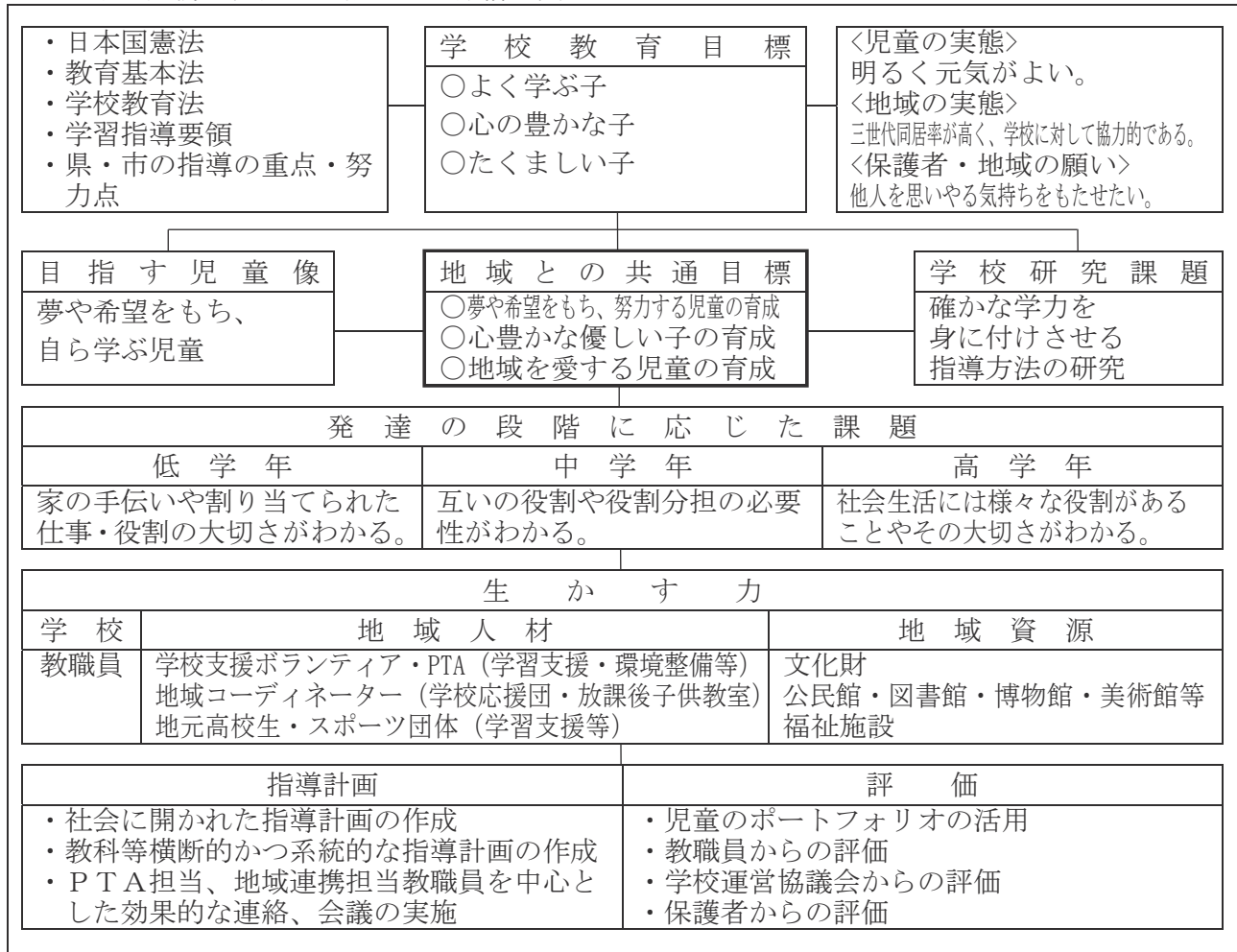
#### <事例1> 地域とともにある学校を目指した教育課程の事例

##### 1 教育課程を編成する上での留意点

まず、地域人材、地域資源（社会教育施設、文化財等）等の実態把握に留意する。なお、学校と密接な関わりをもつ組織（例えば、体育館や校庭を開放している近隣の高校や地域のスポーツ団体）とは相互にとってメリットのある関係（WIN-WIN）が築き易く、積極的に活用できるようにしたい。そのような組織には、児童の学習支援や学校の環境整備等の協力を依頼することが考えられる。

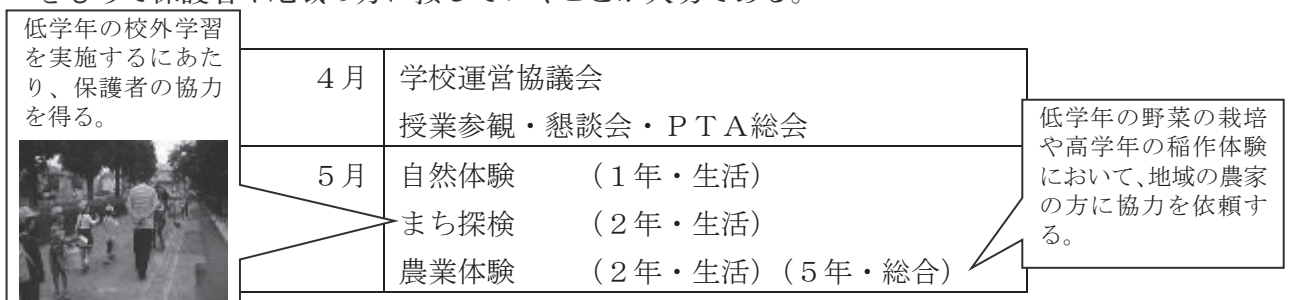
その他、地域の子供会や敬老会等の組織に対しては、地域行事への児童や教職員の参加等を通して、日頃から良好な関係を築いておきたい。なお、これらの組織とは学校応援団連絡会議や学校運営協議会等の話合いの場を活用し、代表者と効率的な打ち合わせを行い、学校と地域が目標を共有していく必要がある。

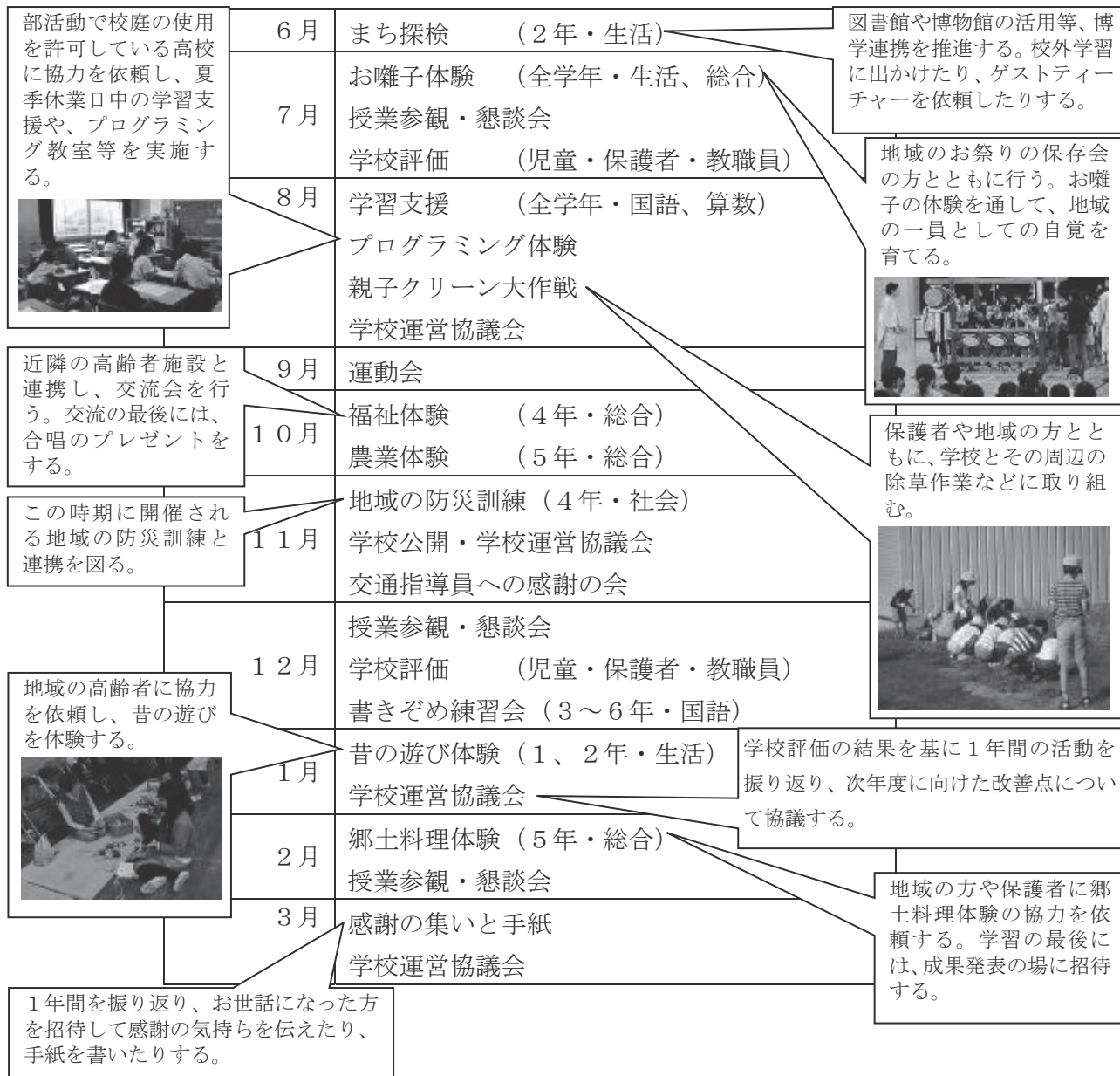
##### (1) 地域と連携・協働を目指した全体構想図



##### (2) 1年間の流れ

教師は、学校が地域の方に学習等でお世話になっていることを折に触れて児童に知らせることで、地域を愛する気持ちを育んでいく。教職員も日頃から「地域とともにある学校」という意識をもって保護者や地域の方に接していくことが大切である。





## 2 教育課程を評価する上での留意点

学校運営協議会で意見を聞きながら、教育課程を評価していく。この際には、「地域を愛する児童の育成」といった、地域との共通目標を観点とした適正な評価規準を作成することに留意が必要である。また、学校評価や人事評価等においても評価項目を設定し、取組の修正と改善を図っていく。

## 3 評価結果を基にした教育課程の改善

学校運営協議会、学校評価等を活用し、指導計画の振り返りを行う。地域と学校が連携して指導計画の改善を行うことで、両者にとって持続可能な形にしていくことが重要である。

### 評価・改善の流れ

- 4月 学校運営協議会にてその年度の学校経営方針を示し、承認を得る。  
懇談会・PTA総会にて、保護者に説明を行う。
- 7月 懇談会にて、保護者に学校評価について説明を行う。→学校評価の実施。
- 8月 職員会議等を活用し、学校評価を分析。夏季休業日以降の指導に生かす。
- 11月 教育週間を活用し、地域の方に学校公開を行う。  
学校運営協議会にて、地域の方の意見を集める。
- 12月 懇談会にて、保護者に学校評価について説明を行う。→学校評価の実施。
- 1～2月 職員会議等を活用し、学校評価を分析し、次年度への改善に生かす。  
学校運営協議会で次年度に向けた改善点について協議する。
- 2月 懇談会にて、学校評価の結果を保護者に伝える。
- 3月 学校運営協議会にて、次年度の学校経営方針を示す。

をその行  
まの事  
と都等  
め度の  
て行の  
お振  
お行  
く。返  
。改  
善  
は  
案



## <事例2> 確かな学力の育成を目指した教育課程の事例

### 1 教育課程を編成する上での留意点

確かな学力の育成を目指すためには、学校教育を通じて、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成が相互に関連し合いながら、一体的に実現されるものであることに留意する必要がある。

その際、確かな学力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に努めることが大切である。

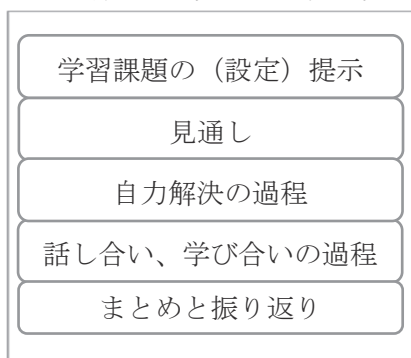
そして、県学調及び全国学力・学習状況調査を活用し、カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程を編成する必要がある。具体的には、以下のようなものがある。

- ①学力向上のPDCAサイクルの確立
- ②効果のあった取組の把握
- ③コバトンのびのびシート、復習シート、コバトン問題集の活用

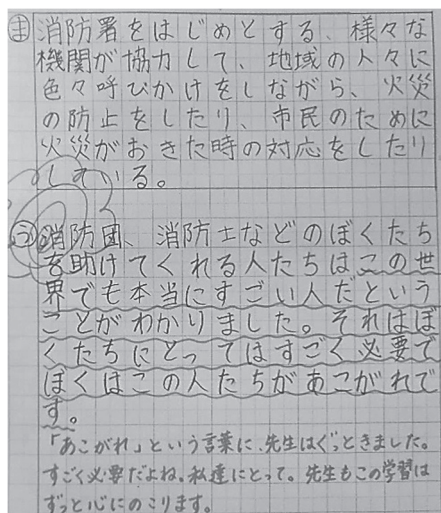


### 2 教育課程を評価する上での留意点

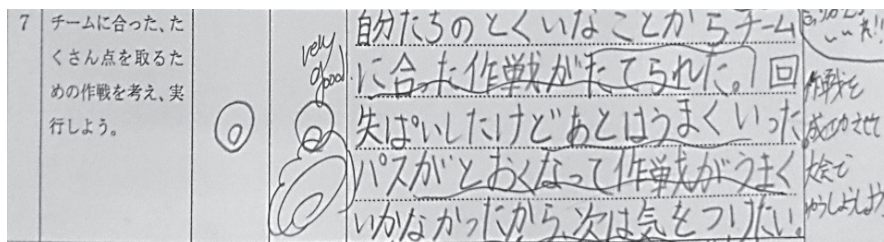
#### (1) 主体的・対話的で深い学びの実現のために（校内で取り組む授業改善）



<社会科「火事からくらしを守る」>



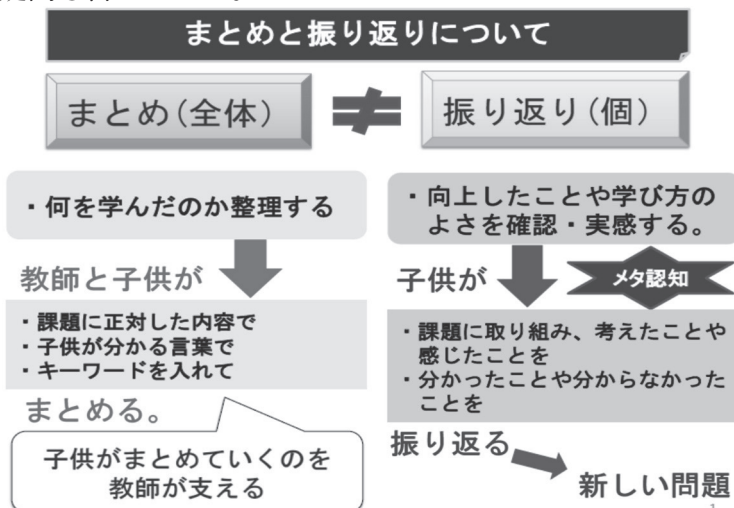
<体育科「タグラグビー」>



『「主体的・対話的で深い学び」の実現 6 則（P328参照）」及び「私の学校・学級ではこんな取組が効果的でした（P329参照）」を参考に授業改善を進めていく。

校内に若手が多い場合には、左の資料を参考にしながら授業の基本的な流れを「例：個人→グループ→学級全体→個人」とし、校内で共通理解を図ることも考えられる。

なお、「まとめ」は学級の共通理解事項として、本時の課題に正対した形とする。そして、「振り返り」は、児童が個々に行うことであり、教師が身に付けさせたいことが児童の学んだこととして意識されることが大切である。加えて、次につながる新たな問題や疑問も書かせたい。



観点別学習状況の評価で捉えた児童の姿は、学期末等に総括する際の資料とするために記録に残すだけでなく、日々の教師の授業改善につながるためにも生かしていく。

#### (2) 県学調の結果の分析を基にした授業改善

県学調の結果を基に、学校で分析・改善策の検討を行う。検討は全職員で行い、分析・改善策を2学期以降の授業改善に生かしていく。(P11県学調等の評価結果を基にした教育課程の改善参照) 特に効果のあった取組の明確化と共有化を図る。

(3) 組織力の向上

確かな学力の育成のためには、組織的な取組が不可欠である。そのためには、目標を共有し、協働体制を構築することが大切である。また、日々の授業改善に努めるとともに、教職員間の同僚性を高める取組を行いたい。同僚性とは授業を軸としたものであり、授業を見合い、授業について意見交換し、授業力向上のため、切磋琢磨できる環境づくりを学校全体で推進していく必要がある。その際には、「『授業力』自己診断シート (P330～332参照)」を活用するとよい。

3 県学調等の結果を基にした教育課程の改善

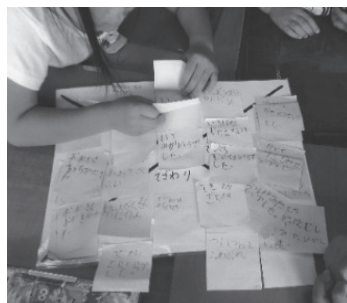
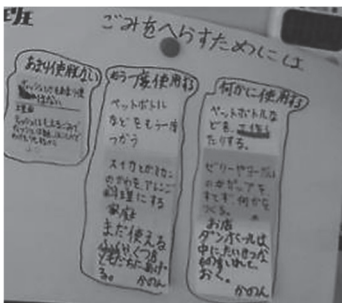
全体計画、年間指導計画の作成においても、PDCA サイクルを基にした検証改善サイクルを取り入れたものにしていく。(P 4 参照)

まず、一人一人を確実に伸ばすためには実態把握を早期に行うことが重要である。「コバトンのびのびシート」の活用や県学調の結果の分析など、2学期以降の指導に生かせるような計画立案をしていきたい。それ以外にも、年間を通して「復習シート」や「コバトン問題集」に取り組めるよう計画を立てていく。

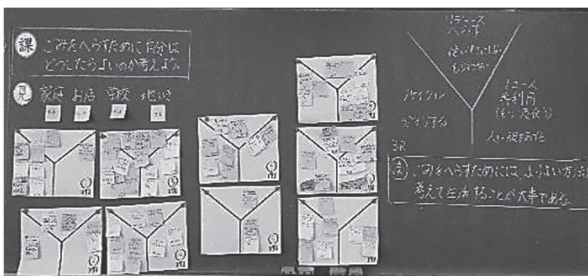
その上で、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を進めて、児童一人一人を確実に伸ばせるような全体計画、年間指導計画を各学校で作成していく。指導の工夫としては、KJ法やXチャート等の活用などがある。効果のあった取組を学校全体で共有していく。

< KJ法での意見分類 >

< Xチャート >



< Yチャート >



計画の遂行に関しては、年度当初に、教職員で全体計画を共通理解する。共通理解・共通行動の下に、指導計画を踏まえた教育を実践していく。また、個人の取組を評価・改善し、次年度へも引き継げるように、資料として残していく必要がある。この一連のPDCAサイクルを意識した授業改善をシステム化して行うことが大切である。

県学調の分析を基に、主体的・対話的で深い学びに特化した計画



全体計画や年間指導計画の作成においても PDCA を基にした検証サイクルを取り入れていく。

| 00年度 | 学力向上のための一年間の流れ(例)                   |                  |
|------|-------------------------------------|------------------|
| 月    | 授業改善の具体的な取組                         | 家庭・地域            |
| 4    | ○校内研究体制の確立                          | ○家庭学習の手引き配布      |
| 4    | ◇第1回学力向上推進委員会(プランの確認・共通理解・共通行動) (P) | (第1回懇談会にて)       |
| 4~   | ○主体的・対話的で深い学びを実現する、授業実践 (D)         | HPで学力向上の啓発(通年)   |
| 4~   | ○読書活動の充実(朝読書・読書週間・全校読書朝会・親子読書)      | 家族読書             |
| 5    | ○全体研修(学調分析・課題の明確化・対応策の検討) (C・A・P)   | 学力向上だより1号発行      |
| 7    | ○主体的・対話的で深い学びの授業実践の評価 (C)           |                  |
| 7    | ◇第2回学力向上推進委員会(プランの見直し・具体策の決定) (A・P) | 個人面談(夏季休業中)      |
| 8    | ○コバトンのびのびシートの作成・活用                  |                  |
| 9~   | ○分析を基にした授業改善 (D)                    | 学力調査結果の概要を公開     |
| 12   | ◇第3回学力向上推進委員会                       | 教育週間における授業参観     |
| 12   | ○主体的・対話的で深い学びの授業実践の評価 (C)           | 学力向上だより2号発行      |
| 1~   | ○分析を基にした授業改善 (D)                    | 入学説明会における学力向上の説明 |
| 2    | ○児童の変容からの評価 (C)                     |                  |
| 3    | ◇第4回学力向上推進委員会(次年度への課題の明確化) (A・P)    | 学力向上だより3号発行      |
| 3    | ○主体的・対話的で深い学びの授業実践の評価 (C)           |                  |
| 3    | ○各教科指導計画の見直し (P)                    |                  |
| 3    | ○プランの見直し (A・P)                      |                  |
| 通年   | ○一人一研究授業                            | (D)              |
| 通年   | ○授業公開ボードを活用した授業公開(同僚性の構築) (D)       |                  |

### <事例3> 豊かな心の育成を目指した教育課程の事例

#### 1 教育課程を編成する上での留意点

豊かな心を育む教育を推進していくためには、体験や集団での活動等を通して、自己や他者のよさを知り、好ましい人間関係を形成することが必要である。その人間関係を築くためには、相手の気持ちを考えた言動や行動が大切であるという理解だけではなく、実際に、互いを認め合える共感的な雰囲気が浸透する学校・学級で生活することが大切である。

特別活動や道徳教育を中心としながら、そのような雰囲気の中で生活することを通して、児童は相手の気持ちを考えた言動や行動を身に付けていくことができると考える。

(1) 学級では、以下のような取組を重視していくことで、互いを認め合える共感的な雰囲気をつくっていくことができる。

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p>① 清掃などの当番活動や係活動の取組</p>  | <p>② 学校全体で行う道徳教育の要となる特別の教科 道徳</p>  | <p>③ 各教科の特質に応じた道徳教育の内容を教科等横断的に実践</p>  |
|---|---|--|

(2) 学校や学年においては、道徳教育推進教師や特別活動主任が中心となり、以下のような取組を通して互いを認め合える共感的な雰囲気が浸透する学校をつくっていくことができる。

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p>① 規範意識を向上させる取組<br/>(近隣中学校等とのあいさつ運動等)</p>  | <p>② 勤労生産・奉仕的行事の取組<br/>(学校ファーム等)</p>  | <p>③ 異年齢集団による取組<br/>(たてわり活動等)</p>  |
|---|--|---|


日常生活の関わりの中で、児童の実態を日常生活の中で把握しておくことは、必要である。

定期的な把握の方法の一つとして、「なかよしアンケート」を実施することがある。この方法は、把握するのに効果的であるだけでなく、児童に「先生は自分たちのことを見てくれている」という安心感を与えられるという効果も期待できる。

<学校独自で作成したアンケートの例>

**なかよしアンケート**

わん 年 ぐみ なまえ 組 名前 ( )



①あなたは、いまの学年がくねんになってから、なやんだり、こまったりしたことはありますか。それは、どんなことですか。ない人は、楽しかったことやうれしかったことを書きましょう。

②あなたは、いまの学年がくねんになってから、とも友だちがなやんだり、こまったりしているのみを見たりき聞いたりはありますか。それは、どんなことですか。ない人は、楽しかったことやうれしかったことを書きましょう。

## 2 教育課程を評価する上での留意点

教職員、保護者、学校応援団、地域による評価を学校運営協議会などの場で話し合い集約する。その際、学校・保護者・地域による評価の項目を共通にすることで、より多角的な検証結果が得られる。

| 豊かな心の育成を目指した取組について |  |              |     |             |
|--------------------|--|--------------|-----|-------------|
|                    | 評価項目例                                    | 自己評価<br>(教員) | 保護者 | 学校応援団<br>地域 |
| ①                  | 学校は、家庭・地域等と連携して、規範意識を向上させるための取組を推進している。  | A            | B   | B           |
| ②                  | 学校は、勤労・生産体験を通して、豊かな人間性や社会性を育む取組を推進している。  | B            | A   | A           |
| ③                  | 学校は、異年齢集団の関わりを深める取組を推進している。              | C            | B   | B           |
| ④                  | 学校は、豊かな感性や情操を育成するための取組を推進している。           | B            | C   | B           |
| ⑤                  | 学校は、教師が一体となって、望ましい人間関係を育成するための取組を推進している。 | B            | B   | B           |

評価項目は、特別活動等の評価規準や児童の実態を参考にしながら設定する。

C評価の場合、新たな手立てを講じ、年間計画に反映させる。

## 3 評価結果を基にした、教育課程の改善

P D C A サイクルを基にした検証改善サイクルに留意する。特に、評価の段階で取組が不十分であった項目（C評価）については、再度教職員間で練り直して次年度の年間計画に反映させていくことが必要である。

【評価結果を基に見直した年間計画の例】「豊かな心を育むための取組」（第6学年）

| 月  | 学校行事<br>児童会活動等                        | 職員会議<br>研修会                          | P T A<br>地域連携                         | 各教科等の学習計画   |
|----|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 4月 | 始業式<br>入学式<br>1年生を迎える会<br>たてわり活動始めの会  | 学校長経営方針<br>いじめ防止マニュアルの確認<br>要配慮児童の確認 | 一斉下校<br>登校指導                          | ボランティア活動をしよう（総合的な学習）<br>B 親切、思いやり（道徳）<br>たてわり活動に向けて（特別活動）<br>ケータイ・ネット教室（特別活動）                   |
| 5月 | たてわり遊び①<br><b>中学校吹奏楽部によるふれあいコンサート</b> | 要配慮児童に関する研修<br>学校生活アンケート（なかよしアンケート）  | 中学校生徒会との挨拶運動<br>土曜公開日<br>P T A 合同除草作業 | バスケットボール[市内球技大会に向けて]（体育）<br>ボランティア活動をしよう（総合的な学習）<br>A 正直、誠実（道徳）<br>防犯教室（特別活動）<br>修学旅行に向けて（特別活動） |
| 6月 | <b>たてわり給食①</b><br>修学旅行（6年）<br>市内球技大会  | 学校生活アンケート（なかよしアンケート）の分析・集計           | 地区懇談会<br>お父さんの会<br>イベント               | おすすめの本を紹介する（国語）<br>バスケットボール[市内球技大会に向けて]（体育）<br>和楽器鑑賞（音楽）<br>ボランティア活動をしよう（総合的な学習）<br>D 生命の尊さ（道徳） |

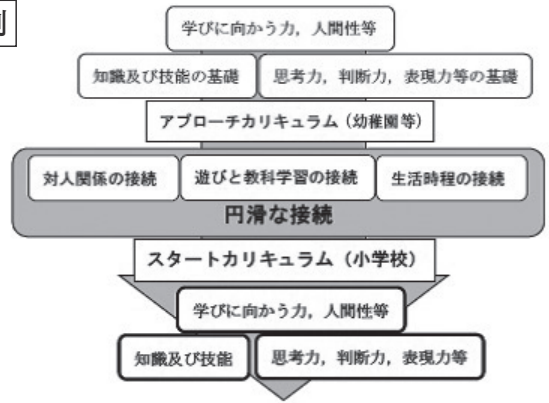
「中学校吹奏楽部によるふれあいコンサート」と「たてわり給食」は、2の評価項目「③異年齢集団の関わりを深める取組」と「④豊かな感性や情操を育成するための取組」の結果がCだったことを受けて設定している。

評価を受けて、新たに取組む内容については、斜体にする等の変化を加えることで、前年度からの変更点が分かるようにしておくとうい。

## <事例4> 幼児期の教育との円滑な接続を目指した事例

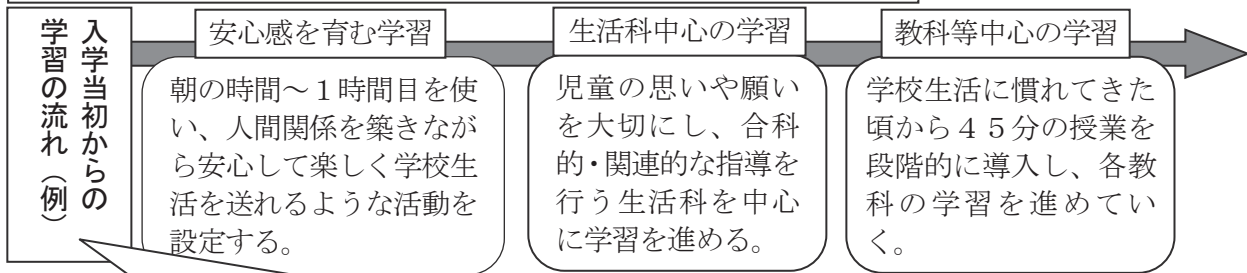
### 1 教育課程を編成する上での留意点

まず、小学校は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして幼児期の教育における学びや発達について理解し、接続期のカリキュラムを編成したり改善したりすることが必要である。次に、円滑な接続に向けた具体的な取組内容を検討する。幼小の交流等の活動については、負担が一部の学年や職員に偏ったり、慣例として行われていることを理由に毎年内容を見直さなかったりすることがないように、留意することも必要である。



<スタートカリキュラム作成のための配慮と工夫のポイント>

- 時間割の工夫 ○授業の工夫 ○人間関係の配慮 ○家庭との連携
- きまりへの適応と安全への配慮 ○幼児期の経験を生かす配慮



児童にとって必然性のある内容となるように、学習の配列を工夫する。

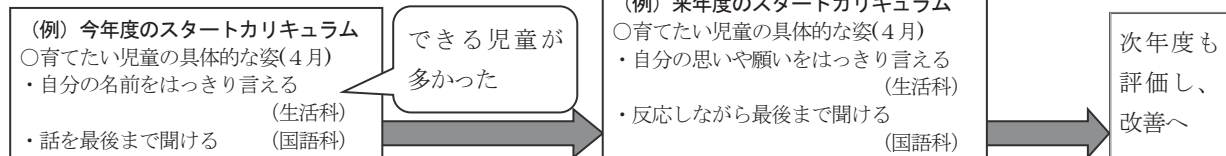
### 2 教育課程を評価する上での留意点

まず、幼小の円滑な接続を目指し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連を考慮した、教科等の学習につながる評価規準を設定することが大切である。次に、評価規準を基に児童がどのように育っているかについて具体的な姿を評価する。また、評価については、幼児期の教育において育まれた資質や能力が、小学校で育成すべき資質や能力に接続するように留意する。

| 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮した接続のイメージ |   |   |
|-------------------------------------|---|---|
| 校種                                  | 幼稚園等  | 小学校   |
| 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の例                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたいことに向かって心と体を働かせている。</li> <li>・仲間と関わりながら活動するよさを感じられる。</li> <li>・きまりがあることの大切さに気付いている。</li> </ul> | スタートカリキュラムで教科等の学習へ接続<br>体育科の評価規準へ<br>特別活動の評価規準へ<br>特別の教科 道徳の評価規準へ |

### 3 評価結果を基にした教育課程の改善

まず、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた評価結果を基に、次年度に向けてよりよい接続の在り方を検討する。スタートカリキュラムは毎年同じではなく、児童の実態によって変わるものである。幼小で目指す幼児、児童像を共有し、具体的にどのような姿に育てたいかを考え、スタートカリキュラムを作成していく。



次に、幼小が互いに改善を図りながら「接続のための連携・交流」を組織的に行っていくことが重要である。また、継続して改善を行うには、相互参観や合同研修、連携推進協議会等を年間を通して計画的に位置付ける必要がある。

園児に1年生の授業を見せることに重きを置いたが、交流が不足したため、次年度は1年生と園児と一緒に活動する時間を増やすように改善することとした。



**<事例5> 特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への対応例**

**1 日本語指導について**

(1) 特別の教育課程を編成する上での留意点  
 まず、指導体制を考える上で、個の実態を踏まえるようにするため、地域のソーシャルワーカーやカウンセラー、母語支援等の方々と定期的にケース会議を行う。

その結果、例えば、日本語指導が必要な児童が、在籍学級で各教科の指導を受けながら、「日本語指導と教科指導の統合指導」を日本語指導担当教員から受けるなどの特別の教育課程を編成することが考えられる。児童の実態に合った十分な教育を受け、多様な個性を伸長できるように留意することが大切である。

(2) 評価する上での留意点

学習の様子を連絡ノート等で在籍校と日本語指導担当教員、家庭の3者が共有していく。また、小さな成果も認めることで本人の励みになるようにし、個性の伸長へとつなげていく。

(3) 評価結果を基にした特別の教育課程の改善

個別の指導計画に記載された事項を基にしながら「学校教育におけるJSL（第2言語としての日本語）カリキュラム」及び「外国人児童生徒のためのDLA（対話的アセスメント）」を活用・改善していく。（※JSLとDLAは文科省HPでダウンロード可）



個別の指導計画

| フリガナ  | 6年   | 作成日 | 年月日 |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
|---|--|-----|-----|-----------|---|---|---------------|----|----|----------------|---|---|------------------|--|--|
| 児童名   | 作成者  | 更新日 | 年月日 |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○授業の始まり終わりのあいさつは、時々言い間違えるが、「お断りします」「ありがとうございます」を言うことができる。 |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○黒板に記入するとき「失礼します」「失礼しました」が言える。                            |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○平仮名4文字を記める。  |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○1、2年生の漢字を総ざらり書いたり出来る。                                    |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○九九をだいたい覚えていく。(8の段に不安がある。)                                |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○テストなど文章を詳しく理解できれば、安定した学力が身につく。                           |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○3年生の漢字を総ざらり書いたりすることが出来る。                                 |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○日本の歴史について、理解を深める。  |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○日本と世界とのつながりが大まかに分かる。                                     |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| ○簡単な文章を詳しく読むことができる。                                       |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| <b>指導計画</b>   |  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 月   | 4  | 5   | 6   | 7         | 8 | 9 | 10            | 11 | 12 | 1              | 2 | 3 |                  |  |  |
| 学期  | ①  |     |     |           |   |   | ②             |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 特別の教育課程   | 国語・文法を指導し、しなだれ、スラスラと書けることが出来る。   |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 学習内容  | 社会・時代の流れ、を理解しながら日本の大まかな歴史が分かる。   |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 指導計画  | 1 読みかたのつづり   |     |     | 3 武士の旗の中へ |   |   | 4 明治維新を導いた人びと |    |    | 5 日本とつながりの深い国々 |   |   | 6 わたしたちのくらしと日本国語 |  |  |
| 指導計画  | 2 天竺中心のつづり   |     |     | 3年生の漢字練習  |   |   | 3年生の漢字練習      |    |    | 6年生の漢字練習       |   |   | 高の術              |  |  |
| 指導者   | 金子 敬司  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 実施場所  | 日本語指導  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 上記以外  | 他、つづりや漢字の練習をそのままする機会がもたれたので、身の回りについて声かけをした。                                  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 指導内容  | ○日常会話には、大まかに話せることができる。学習も意識的にできた。また、なわとびの授業も上達した分際をわびをやり取ることができた。            |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 方法  | ○書き出しは自己流になる。3年生の漢字を中心として学習に励んだがなかなか身につかなかったが、1分間スピーチなど会話では、大まかに話せるようになってきた。 |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 結果  | ○学校生活に慣れ、あいさつは元気よく出来るようになった。   |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |
| 評価  | ○国語委員会の委員になるほど、学校生活に慣れ親しんだ。  |     |     |           |   |   |               |    |    |                |   |   |                  |  |  |

**2 不登校児童対応の教育支援センター（適応指導教室）について**

(1) 教育課程を編成する上での留意点

当該児童が在籍する学校が、教育支援センターと連携し、組織的・計画的に教育課程を編成していく。その際には、不登校になったきっかけや理由についての確に把握することが求められるが、ケースによっては在籍校の担任、教育支援センターの指導員、臨床心理士、スクールソーシャルワーカー、自立支援士、民生委員等でチームを組み、把握をすることも考えられる。その後、把握した情報を基にして、児童に合った支援が策定できるように留意する。なお、「児童生徒理解・支援シート」を作成する場合も考えられる。

「児童生徒理解・支援シート」の一部。他に、学年別シートA・Bや協議シート等がある。

(2) 評価する上での留意点

不登校児童が教育支援センター等の学校外の施設において指導を受ける場合、在籍校は教育支援センターと連携をとって対応していくことになる。その学習内容が教育課程に照らして適切と判断される場合は、「出席扱い」とみなして学習評価の結果を指導要録等に記入したり、通知表等で本人や保護者に伝えたりするなど、多様なニーズに対応できるようにしていく。なお、評定等で評価できない場合には個人内評価とする場合も考えられるため、児童や保護者に対し、学習状況や評価の仕方等を事前に伝えておくことが必要である。

(3) 教育課程の改善

細かな変更を見取りながら柔軟に対応し、児童が自らの進路等を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指していきけるような指導上の工夫をしていく。

同時に、児童が不登校にならない、魅力ある学校づくりを目指すとともに、いじめ、暴力行為、体罰等を許さないなど安心して教育を受けられる学校づくりを推進することが重要である。

児童生徒理解・支援シート(共通シート)

| 氏名     | 性別  | 年齢 | 学年 | 転入日 | 転出日 |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--------|---|----|----|-----|-----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 保護者    |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 連絡先    |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 学年別出席簿 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>中学</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> |    |    |     |     |    | 学年 | 1月 | 2月 | 3月  | 4月  | 5月  | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 | 小学 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 中学 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 学年     | 1月  | 2月 | 3月 | 4月  | 5月  | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 小学     |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 中学     |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 指導員    |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 指導内容   |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 指導方法   |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 指導結果   |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 指導者    |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 実施場所   |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 上記以外   |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 指導内容   |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 方法     |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 結果     |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 評価     |   |    |    |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |    |     |     |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |